
剣に誓いを

涼翔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

剣に誓いを

【Nコード】

N6391F

【作者名】

涼翔

【あらすじ】

今宵も少女は満月に双剣をかざす。この刃に復讐を。幼き日に、すべてを失った少女の物語。剣や魔法や魔獣などいろいろな者が交差する世界を舞台にしたお話。別にシリアスってわけでもありません。更新は遅そうです。続くかも不明。

志零：プロローグ（前書き）

続くかどうか不明なお話です。

志零：プロローグ

あの夜は忘れない

大事な人をうしなつたあの夜を

あの紅色を忘れない

ただ見ている事しかできなかった血の色を

あの感情を忘れない

手から零れ落ちないようにあがくこともできなかったあの日

を

あの満月を忘れない

ただ紅く輝き非力な自分をあざ笑っていたあの月を

だからこの双剣に誓ういつか必ず復讐を

剣を満月に向けて今宵も少女は聖句を歌う。それは少女の誓いの言

葉。

志瑠：少女の過去

満月の夜、今日も少女は夢を見る。

周りを満たすは深紅の炎。瞳に映るのは、知人の死体。『ディア』とゆう王国は今日滅びた。

『ディア』とゆう国は、あまり大きな国ではなかった。周りには、『クレイシア大陸』でも強力な『五強国』商人の国『ミリア』魔法の国『アクア』精霊の国『シーミラ』剣士の国『クイズ』いろいろな種族の国『カイノス』。そのうち『アクア』と『シーミラ』にはさまれていままでも国が滅んでなかったほうがおかしかったのだらう。

『アクア』から軍門に降れと手紙が届いたのは3ヶ月前だった。『ディア』は会議の結果その話を断った。その日から『アクア』の『ディア』への攻撃が開始された。

『ディア』はなんとか戦い続けていたが高度な魔術師団によって瞬く間に占領されていった。

わずか2ヶ月で中心都市以外は占領された。『ディア』は最後の最後まで戦う事を決め今日ついに『アクア』に城内に侵入され一瞬にしてほとんどの者は殺されていった。

『ミーフィア・ディア』それが少女の名前だった。『ミーフィア』は第一皇女だった。

『ミーフィア』は、ディアの王族がすべて金髪をもっていたが『ミーフィア』だけ違った。『ミーフィア』は金髪ではなく誰の目にもわかるほど美しい銀髪と蒼眼をもっていた。『ミーフィア』は10

歳だった。

『アクア』の軍が特殊な結界が張られた王室の目の前まで迫っていたそこには、王の『シンクル・ディア』と王妃の『リシア・ディア』と『ミーファイア』がいた。

「この国ももう終わりだ」

「そうですね。この国が滅ぶのはとても残念です」

「お父様。お母様。まだあきらめることはありません！」

「『ミーファイア』もう無理だ。あと30分もしないうちにここに敵がくるだろう」

「でも…」

「お前の気持ちはわかってる。だからせめてこの国が滅んでもこの血縁は守らなければならない。私達はもうここで終わる。だがせめてお前に私達の魔力と神獣『シルヴィ』をお前に授ける」

『ディア』の王族は元々とても強い魔力を秘めていた。『ディア』には守護神として、神獣とゆうものが存在していた。神獣は『ディア』は風の獣『シルヴィ』が神獣の姿だった。

「でも、私にそんな事できるでしょうか？」

『ミーファイア』とゆう少女は、自分に自信がなかった。

「ええ、『ミーファイア』になれますわ」

「わかりました。お母様、お父様。必ず血縁を残してみせましょう」

「ああ、お前にすべてまかせる。儀式場の真ん中にいつてくれ」

儀式場はすでに用意されていた。ここで親からすべてを伝承されるんだろう。

「あの…お父様お母様いままで育てていただいてありがとうございます」

『ミーファイア』は涙をながしながら最後の別れをつげた。

「ああ、これからのことはお前しだいだ。自分で道を決めるといい」

「さようなら、私達もあなたに出会えて幸せでした」

「儀式を発動する」

その一言とともに『ミーファイア』の身体に膨大な魔力と『シルヴィ』とゆう力の形が瞬く間にあふれていった。

「ありがとうございますお母様、お父様。私はもういきます」

涙を流しながら私にすべてをたくしてくれた二人のためにもう振り返れない。

そのとき扉があいた。それと共に少女の地獄の脱走が始まった。

少女は、敵を見るより先に行動を開始する。

何をすればいいのかはもうわかってる。右手には、すでに剣が握られていた。桜の柄が入った鞘に入っている剣。すべてを浄化する純白の魔剣『桜花』。

少女は、自分の身体に『シルヴィ』の風の力を『エンチャント』とする。エンチャントは、魔法では、初めに覚える魔法だが、剣士にとってその単純なワザこそ最強である。身体に風を纏う。

最初の一撃は壮大だった。少女のいままで鍛えてきた剣技と魔法の組み合わせだった一振りは、目の前にいる者10人ほどを切り裂いた。だが目の前には、まだまだ魔法使いがあふれていた。

「死にたくなければどきなさい！」

少女は泣きながら叫ぶ。だがどける者など一人もいるわけがない。少女が人を殺したのは初めてだった。もうすでに、足も手も身体も震えていた。魔法使いがそれに気づいたように次々と魔法を放ってくる。だが少女にとってそんなものなんでもなかった。

『桜花』を構え人には視認できないくらいの速度で切り裂きながら走り貫ける。

少女は、風になって駆け抜ける。それは誰も止められない。

『ミーフイア』にはそれからの記憶はない。次起きた時今の剣の師の『バーン』の家のベットの上にいたのだから…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6391f/>

剣に誓いを

2010年10月9日11時10分発行